

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0190501361		
法人名	医療法人 重仁会		
事業所名	グループホームレガロ大谷地		
所在地	札幌市厚別区大谷地東5丁目7番14号		
自己評価作成日	令和1年9月3日	評価結果市町村受理日	令和1年12月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190501361-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	平成元年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日体操を行なっています。脳トレや塗り絵等のレクリエーションを提供しています。毎月行事を行なっています。隣接の病院が運営母体である事から入居者様の体調不良の際は内線やメールで連絡を取り、早めの対応をとれるようになっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市地下鉄東西線大谷地駅から徒歩圏内の利便性のよい住宅地にあり、法人グループの母体病院に隣接した2階建て2ユニットのグループホームである。建物内は落ち着いた配色を施し、廊下は車いすが交差できる程幅広く全体的にゆったりとした作りである。運営母体は医療法人で、地域医療に長く貢献しており、最近では、ベットメーカーと車いすを共同開発するなど地域では欠かせない病院を中心とした法人グループである。事業所は、法人母体の病院に隣接しており、体調不良の時は、内線電話や電子メールで連絡が可能な24時間体制の医療連携を構築している。また、災害対策の緊急体制もグループ内の連携が築かれている。事業所は、外出行事は少ないが家族の集いが多く、家族の訪問が増え利用者も笑顔が多い。利用者は、脳トレなどのレクリエーションを行い、いつもリビングで寛いで過ごしており、笑顔で明るいホームである。認知症高齢者の事業所としてこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は施設玄関に掲示している。毎月のケア会議の時に唱和して実践できるように努めています。	事業所の理念は、事業所内に掲示し、利用者や家族にも周知するよう努めている。職員は、毎月のケア会議時に唱和して、説明しており、職員間で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域との交流はあまり行っていない。法人内の保育園の子供たちが来てくれることもあります。	町内会の活動があまりない為、地域との交流が少ないが、運営推進会議に老人クラブ会長や消防団員が参加するなど少しずつ交流が広がってきている。また、法人内の保育園の園児の訪問交流と隣接している小学校の運動会の観戦が毎年の楽しみな行事になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症家族の会を2か月に1回行い地域と共に認知症の人の理解を深めていけるよう努力しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、ご家族様や地域の方に参加して頂き、事業所の状況報告や話し合いを行っています。	運営推進会議は、家族や老人クラブ会長、消防団、地域包括支援センター担当者などが参加して、定期的に開催し、運営状況の報告や情報交換、意見交換などを行いサービス向上に活かしている。また、家族の参加が増え意見を聞くことが増えた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターへ運営推進会議録議事録を郵送させて頂いている。社協のボランティアの受け入れ相談など、協力関係を築くようにしています。	厚別区には定期報告を行っており、区の管理者会議には参加して情報交換している。また、社協のボランティアの受入れなど連携して協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月毎に身体拘束について話し合いをして会議録を作成している。職員一人一人が拘束を理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束適正化委員会を設置し、3ヶ月に1回開催して検討会を行っている。研修会は法人内研修が1回で、内部研修も1回行い指針やマニュアルを整備して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修や勉強会などで虐待の知識を学び普段の声かけも職員同士で注意して防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内研修で勉強会を実施しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行うように心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時の意見を聞き入れて改善に努めています。ご家族様面会時に近況報告をしてご家族様とコミュニケーションを図れるように努めています。	ホーム便りを2ヶ月に1回発行して、家族へ運営状況の報告をしている。運営推進会議などの家族の参加が増え、面談も増加して、家族からの意見や要望を聞き取り、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や勉強会でスタッフの意見を聞き、できるだけ反映する様に努力しています。	ユニット会議を月1回開催している。職員へのアンケート調査を年1回行っており、意見等を集約している。また、個人面談は、年1回定期的に実施しており、職員からの意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金を通じて、給与水準の適正化を図ったり、パースデー休暇を設けて福利厚生等の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望や特性に応じた研修への参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	認知症ケアカフェなどに参加して交流の機会を設けています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情や行動の観察を行い、傾聴しながらその方の思いを汲み取れるよう努力しています。安心して頂けるような声をかけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と面談を行い、ご家族様の要望等を聞き、職員間で共有して関係づくりに役立てるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様のお話をする中で思いを受け止め、必要な支援を見極めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様とレク等を楽しみながらコミュニケーションを図り、信頼関係を気づけるようにしている。困りごとがあった時には話を聞き、一緒に解決できるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々入居者様の様子をお伝えして相談しながら共に支えていく関係を気づけるように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の知人等の来訪者も快く受けています。	交通の便が良い為、家族や友人・知人の来訪が多く、家族と一緒に墓参りや外泊、外食など行っている。理容院や美容室は訪問だが、職員同行で、ドライブがてら食事や買い物など支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士会話が出来るような席の配置やレクリエーションを通してなじみの関係になれるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様のご家族様が家族の会などに参加して下さいます。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聴きながら希望に沿えるよう職員で話し合い検討しています。	日常生活の中で、本人の思いや意向を聞きながら、希望に添えるよう職員で検討し把握するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のフェースシートで情報を把握しています。出来る限り今までの生活を継続していただけるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りを見聞して現状把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、ご本人様やご家族様の意向を踏まえて現状に即した介護計画を作成しています。	職員全員でモニタリングのチェックリストを作成し、計画作成担当者が集約して原案を作成した後、カンファレンスで検討し、本人の現状に即した介護計画を作成している。見直しは3～6ヶ月サイクルである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、パソコンと別紙に記録しています。職員間で情報を共有しながら見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の変化や状況に応じた柔軟な支援やサービスに取り組むよう心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加はほとんどありませんが、ボランティアの来訪や食事等の出張をしていただき、楽しめるような機会を設けています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診を受けています。体調変化があった場合は看護師や協力医療機関の医師に連絡して指示を仰いでいます。	協力医療機関は月1回の往診で、看護師は非常勤だが、週3回の協力医療機関からの訪看である。協力医療機関とは内線電話で繋がっており、24時間体制で適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に3回入居者様の様子を見ていただいています。変化がある場合は都度連絡して指示を仰ぎ対応させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された際はお見舞いに行かせて頂いています。入院時はサマリーを通してその方の情報提供を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合について説明させて頂き、24時間の医療連携体制で重度化した時の支援に取り組んでいます。	重度化や終末期の対応については、入居契約時に説明し同意を得ている。重度化した場合は、24時間体制の医療連携で支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、緊急時に役立てています。AEDを設置して緊急時に使用できるように講習会を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っています。災害時に備えて水等の備蓄をしています。	火災の避難訓練は、年2回定期的に行っており、内1回は消防署の指導の下に行っている。備蓄や備品を整備して、消防団の参加協力もあり、災害対策で地域との協力体制を築くよう取り組んでいる。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重しながら、その方が理解されやすいような声かけを個々に合わせながら行っています。	人格の尊重とプライバシーについては、接遇研修を定期的に行っており、声掛けや言葉使いなど注意しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で自ら希望をお伝えくださる方もいれば職員からの問いかけで思いや希望を声に出した下さる方もあります。自己決定することが出来ない方には、選択肢を提示していくことでその方の希望に沿えるように心がけて		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	状況によっては職員の都合を優先することもあるが、入居者様の気分や体調に合わせて無理なく1日を過ごして頂けるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用されています。ご自身で選択できる方はお好みの服を選ばれています。選択できない方は選択しやすいような提示をする事で支援しています。整髪や髭剃り等も出来る限りして頂き、手が届かない所は支援させて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の際には昼食の準備を手伝って頂いています。季節に合った食事を提供させて頂いています。食後に食器付記を手伝ってくださる方もおります。	食事は、外部委託だが、月1回以上手作りで行っている。利用者は、片付けや食器拭き、盛り付けなど手伝っている。行事食は、焼き芋や出張寿司、手打ちそばの実演や餅つきなど楽しみな食事の支援である。外食は、職員とマンツーマンで出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	担当医師や看護師に相談して食事量や形態を変えて栄養や水分の確保をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯や歯の仕上げ磨きを行い、残渣物が残らないようケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄をして頂けるよう声かけや誘導を行っています。立位が難しい方には介助しています。	利用者個々の排泄パターンを職員間で共有し、一人ひとりの表情や仕草、時間を見ながら声掛け誘導し、トイレでの自立した排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態、水分の摂取に応じた水分量の把握をしています。下剤(液体、坐薬)の調整を行いコントロールを促しています。毎日体を動かすことも取り入れています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回入浴していただいています。浴室や脱衣室を温めたり、個人に合わせた湯温にして支援しています。	浴室は1階は機会浴で、2階はユニット型である。入浴は週2回だが、曜日や時間も決めておらず、利用者の個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足の浮腫みや臀部状態、体調の悪い時などは居室またはリビングソファで休んで頂いている。夜間不安な様子がみられるときには安心して頂けるような声をかけるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を確認している。理解できないときは看護師に確認しています。一人ひとりの内服方法に沿って(とろみ、手渡し、口に入れる)服薬支援させて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活での家事や手仕事を行って頂いています。計算や文字の練習、折り紙等のレクリエーションを行って頂いている。全ての方への支援は出来ていないです。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や花見等に参加されています。個別に近郊へ散歩やドライブへ行かれています。	日常的にゴミ出しのついでに敷地内や近隣の散歩などしている。事業所として、外出行事より家族の集いを多くするよう考えており、外出はショッピングセンターや家具用品店などの買い物の個別支援となっている。従って、家族の訪問が増えた。	外出行事より、家族の集いを多く計画しているが、家族とともに企画した外出行事を検討することを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は金庫で保管し必要に応じて職員が支払いをしています。年に1回買い物レク時は入居者様にお金をお渡しして支払いを頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の郵送希望があったときは職員がポストへ投函させて頂いています。電話の希望があったときは職員が電話をさせて頂き、相手の方がでてからご本人様にお話していただくよう支援させて頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な空間であることはもちろん温度管理や直接太陽光が当たらないよう工夫をしたり、室内は淡い色で目への刺激が少なく、レクで季節の飾りを製作して季節を感じていただけるようにしています。	共用空間は、広くゆったりしており、吹き抜けもあり採光や風通しもよく、明るい室内である。1階と2階の壁の色は異なるが、行事の写真や自然な飾りつけが季節を感じる。非常口は1階と2階にあり、温度や湿度の管理も行っており、利用者はリビングで寛いで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファがあり、自由に使用して頂いています。談話されたり、レクを皆様で楽しまれています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、装飾物を置かれ安心できる空間作りを行っています。	居室には、収納クローゼットや洗面台、ベットが設置してある。ふとん、マット一式も用意してある。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室等わかりやすく大きく表示しています。安全に歩行できるよう手すりも設置しています。		